

我らの神は焼き尽くす火

2025年6月29日

ヘブル人への手紙 12章25～29節

序：天からの声を拒まないように

あなた方が近づいているのは、手で触ることのできるものではない（18節）

”

新しい神の契約の共同体＝御国（22節）

”

仲介者＝イエス

供え物＝イエスの血

I. 語っておられる方＝神

(1)地上において警告を与える方

イスラエルの民は出エジプトの奇跡の体験者

”

シナイ山で神の顕現を目の当たりにした

にもかかわらず、荒野において、みことばを与えられながらも反抗

山の上で語られた神への反抗に対して、厳しい刑罰を与えられた

(2)天から警告を与える方

私たちは、キリストの福音（救いの道）を聞かされた

聞いても信じない罪は甚大

II. 御声は揺るがせた

(1)全山が激しく震えた（シナイ山における顕現時） 出 19・18

(2)大地を揺り動かす（終末の主の日） 詩 18・7（神の憤りによって）

ハガイ 2・4～7 神殿を中心とするイスラエルの再建

捕囚から帰還した小国ユダを取り巻く世界帝国の力が

打破 ⇒ 神政政治を夢見た

異邦の国々、王たちを倒す

国々の宝物によって、新しい神殿を満たし、神の栄光が輝く

みすばらしい第二神殿 ⇒ 輝く天の神殿

ヘブル書の記者は 預言者のことばを終末的に解釈

「もう一度」

世界の公正な審判者である神が

敵対する諸勢力を打ち砕く

サタンも反キリストも偽預言者も神に背いたすべての人たちも火と硫黄の池に投げ込まれる

かつての地も天も、御座の前から逃げ去って、跡方もなくなる

揺り動かされないもの = 揺り動かされない神の御国 が残るため
キリストは王・大祭司

揺り動かされるものは取り除かれる（今の目に見える世界は一時的）

Ⅲ. 救われている者の生活

すでに御国を受けている
キリストとの共同相続人
すばらしい現在と未来を得ている

(1)感謝しようではないか

とうてい受けるに値しなかった者に与えられている恵みと祝福
主にあっては、恐れなく確信と平安をいただいている

(2)神に喜ばれる礼拝をささげようではないか

感謝と敬虔と畏れをもって
自分を含めた人間を喜ばせるのではなく、救って下さり、用いて下さる神に
喜ばれる生活（生き方／礼拝）

(3)神は焼き尽くす火

審判者を侮ってはいけない（愛の神は義の神でもあられる）
神の目にどう映っているか、思い見て、悔い改めるに速く、怒るのに遅く

Ⅳ. 結び

(1)救われている者の幸いの自覚

律法を守るのではなく、神の恵みにより、イエスに対する信仰によって
三位一体の神の御業による救い
父の選び + 御子の恵み（贖い）+ 御霊の働き（信仰）＝ 救い

(2)すべてのことを神に感謝する

幸も禍も
物質的にも精神的にも
自分の判断 < 神のみこころ
自分自身も周りの人たちも（神の目的があって存在、立てられている）

(3)神に喜ばれる生活

（自分を含め）人を喜ばせたいのか、人の評価を気にするのか
神が何を喜ばれるかはみことば（聖書）によって知る
祈りのうちに示される

(4)キリストの血によるきよめを受けている者は、神の焼き尽くす火のさばきに 耐え得る

(5)契約に背く者は、ことごとくさばきの炎で焼き尽くされる

未信の家族・親族・友人・知人・同僚・学友のための執りなしの祈りと福音の
伝道が急務